

五 月 の 天 象

太 陽

月始めは金牛宮に在るも、21日より双子宮に侵入する。

日	赤 經	赤 緯	星 座	視直径
1	2時33分	北15度 1分	ひつじ	31分47秒
11	3 11	17 50	ク	31 43
21	3 51	20 9	うし	31 39
31	4 31	21 53	ク	31 36

太陽自轉軸の傾きが、次第に減すると同時に、赤道の位置も、益々視中心に近づき、月末には、殆んど之に一致する様になるので、太陽自轉の爲めに見ゆる黒點の運動は、丁度、一直線に東から西へ進む様に見える。

9日に皆既日食が起る。我國では同日午後部分食が見える。(279参照)

月

月の相	時 刻	星 座	視直径
下 弦	2日午前10時25分30秒	や ぎ	29分42秒
新 月	9 午後 3 7 18	ひつじ	32 52
上 弦	16 午前 5 56 0	し し	31 44
満 月	23 午後 9 49 54	さそり	29 44
近地點通過	11 午前 5 6	う し	33 6
遠地點通過	26 午後 4 54	い て	29 26

今月は、6日午後8時に天王星に出會ふのが先づ最初で、それから相次いで、7日午後4時に金星と並ぶ。併し其の距離は随分懸け離れてゐる。次が9日午後10時に木星と、1度以内の距離に接近する。但し之れは、新月のため見えない。次いで11日午前3時に水星と出會ふが、日本からは駄目。14日正午に火星と並び、16日午前10時に海王星に出合ふと、此の遽しい歴訪が殆んど終つて、以後暫らくは遊星のゐない星の林を縫ふて進む。そして最後に、26日午前4時に土星に出會ふのである。

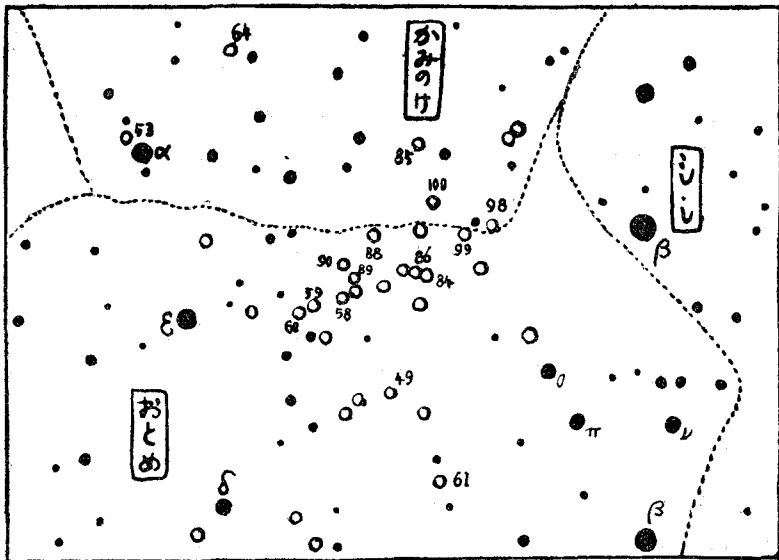
黄 道 光

今月一ぱいはまだ観測出来る。殊に金星や木星等の邪魔もなくなり、只

だ火星のみが天頂近くにあるが、光度も弱ひので左迄不都合ではない。

星雲と星團

夕方 9 時頃になると、「おさめ」が南中して、可成り高い所に位置を占める。此の「おさめ」を「しし」を「かみのけ」の三つの星座の境附近に可成り澤山の星雲や星團が雲集してゐる。若し 3 吋級の望遠鏡であれば其の内の大部分を認める事が出来る。尤も、光度の弱いものであるから、月のない時、空気の清い所である事は必要な条件である。

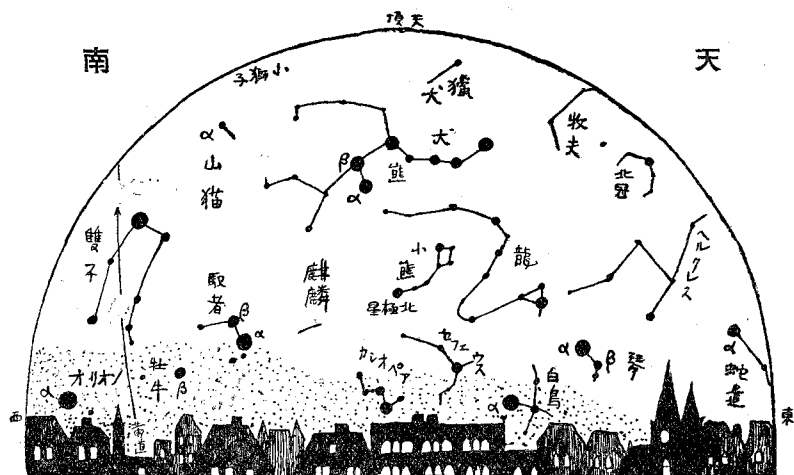


更に此處より約 10 度北の所にも可成り多くの星雲や星團が集まつてゐるから、此處を見られた序に、「かみのけ」座の γ 星附近も見られるさ面白からう。

又た、肉眼で見える星團では、少しまだ時期が早いけれども、M13 がある。位置はヘルクレス座 η 星と ζ 星との間約 3 分の 1 丈 η 星に近い所にある。

日蝕

我國からは部分蝕しか見え、臺北で約六分即ち半分以上かけるけれど、九州では既に三分以下であるし、仙台より北では殆んど肉眼では認められない程になる。各地の蝕の終始の時刻は別稿を見られ度い。(279 頁参照)



遊 星 界

水星 宵の星、日没後約 1 時間西空に見える。月始め次第に太陽より遠くかつて、15 日には東方最大離角 22 度に及び、観望には甚だ都合がよい。其の頃の視直経は約 8 秒、光度は正一等。「うし」座にある。其の後も順行は續けてゐるが、次第に太陽に追付かれる。そして 28 日留となる。

金星 月始め逆行してゐるが 9 日に留となり、以後順行に移る。先月 20 日以後は段々視直経も少なくなつて來たが、月始め 53 秒、月末 36 秒である。併し月末になる程、太陽から遠のくのみでなく、光度も 26 日に最大光輝負 4 等となるので、其の頃は明けの明星として「うさ」座を賑はす。

火星 宵の星。「ふたご」座の東端より順行して「かに」座の東端まで進む。視直経は 6 秒から 5 秒になる。光度は 1 等から 2 等に減する。

木星 14 日に太陽と合さなるので今月は駄目、

土星 「いて」座の銀河中を逆行してゐる。視直経は次第に大きくなり 16 秒で殆んど最大に近い。従つて此星の見頃は今月と來月とである。環の傾も殆んど最大で 26 度である。光度は約零等。

天王星 曉の星。「うさ」座 44 星の東。光度 6 等。視直経 2 秒半。

海王星 宵の星。「しし」座主星に近い。